

Cisco ヘッドセット 500 シリーズ ファームウェア リリース 2.1 リリースノート

First Published: 2020-06-18

Last Modified: 2020-11-19

ファームウェアリリース 2.1 のリリースノート

Cisco ヘッドセット ソフトウェア リリース 2.1 cop ファイルには、Cisco ヘッドセット 500 シリーズ、Cisco ヘッドセット 730、および Cisco ヘッドセット 730 USB アダプタのファームウェアが含まれています。次の表に、cop ファイル内のファームウェアリリースを示します。

Table 1: Cisco ヘッドセットソフトウェア 2.1

ファームウェア リリース	Cisco Headset 500 シリーズ	Cisco Headset 730	Cisco ヘッドセット 730 USB アダプタ
2.1(2.5)	xxx	xxx	1-1-66
2.1(2.3)	xxx	1-5-0-164	1-1-59
2.1(1)	2.1.0001.9	1-3-0-246	1-1-33

Cisco ヘッドセット 730 ファームウェアの詳細については、「[Cisco ヘッドセット 730 リリースノート](#)」を参照してください。

Cisco ヘッドセット 730 USB アダプタのファームウェアについては、[Cisco ヘッドセット 730 USB アダプタリリースノート](#)を参照してください。

新機能および変更された機能

次のセクションでは、このリリースで新しく追加または変更された機能について説明します。

複数のオープン ソフトクライアントを使用する Cisco ヘッドセット 560 シリーズコール制御

Cisco ヘッドセット 560 シリーズは、複数の呼び出し元のアプリを同時に使用する場合に、コールコントロールのエクスペリエンスを向上させます。以前は、Cisco ヘッドセット 560 シリーズでは、複数の呼び出し元のアプリが開いているときに予期しない動作が発生する場合があります。

詳細情報の入手先

- [Cisco ヘッドセット 500 シリーズユーザガイド](#)

Cisco ヘッドセット 560 シリーズでの会議はデフォルトでは有効になっています

Cisco ヘッドセット 560 シリーズ会議機能は、ヘッドセットファームウェアリリース 2.1(1)を使用してデフォルトでは有効になっています。Cisco Unified CM の管理で機能を無効にできます。

詳細情報の入手先

- Cisco ヘッドセット 500 シリーズ管理ガイド
- Cisco ヘッドセット 500 シリーズユーザガイド

Cisco Headset 560 シリーズ マルチベース自動切り替えの機能拡張

ファームウェアリリース 2.1(1) では、Cisco ヘッドセット 560 シリーズマルチベースでの自動スイッチ機能の向上が導入されています。マルチベースは、選択したソースにアクティブなコールがない場合のみ、ソース間で自動的に切り替わります。以前は、マルチベースは、現在のコールステータスに関係なく、時折ソースを切り替えました。

アクティブコール中にソースを切り替えるには、現在のコールを保留にして、マルチベースで切り替えるソースを手動で押します。

詳細情報の入手先

- Cisco ヘッドセット 500 シリーズユーザガイド

Cisco ヘッドセット 560 シリーズの電源は 10 分後にオフになります。

バッテリーを節約するために、Cisco ヘッドセット 560 シリーズは、ベースと 10 分以内にペアリングしないと電源をオフにします。ヘッドセットは、電源付きベースにしっかりと置かれると自動的に電源を入れ、ペアになります。また、4 秒間[コール (Call)] ボタンを押し続けて、ヘッドセットの電源を入れることもできます。

詳細情報の入手先

- Cisco ヘッドセット 500 シリーズユーザガイド

Cisco ヘッドセットを使用したエクステンションモビリティのログイン

エクステンションモビリティユーザは、Cisco ヘッドセット 500 シリーズまたは Cisco ヘッドセット 730 を他のユーザの電話機に接続すると、ログインを開始できます。これをサポートするには、電話機の Cisco Unified Communications Manager で[ヘッドセットベースのエクステンションモビリティ (Headset-based Extension Mobility)] を有効にします。

エクステンションモビリティを使用する際は、次の項目に注意してください。

- Cisco ヘッドセット 500 シリーズは、USB または Y ケーブルで電話機に接続する必要があります。また、Cisco ヘッドセット 560 シリーズスタンダードベースまたは Cisco ヘッドセット 560 シリーズマルチベースを使用して、電話機にペアリングして接続することもできます。

- Cisco ヘッドセット 730 は、USB ケーブルで電話機に接続する必要があります。Bluetooth と Cisco ヘッドセット 730 USB アダプタはサポートされていません。

ヘッドセットを電話機に接続すると、電話機は Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) を確認し、ヘッドセットのシリアル番号がユーザにマッピングされているかどうかを検出します。

- マッピングが存在する場合、電話機はエクステンション モビリティ画面を表示し、ヘッドセットに関連付けられているユーザ ID を表示します。ユーザは、PIN を入力してログインします。
- マッピングが存在しない場合、ユーザはヘッドセットの関連付けページを表示し、ユーザ ID と PIN を入力します。電話機は、ヘッドセットのシリアル番号を Unified CM にリレーし、ヘッドセットをユーザにマップします。その後、エクステンションモビリティのサインイン画面が表示されます。ユーザはユーザ ID を自身のユーザ ID に変更し、PIN を入力します。

次回ユーザがヘッドセットを電話機に接続すると、Unified CM はヘッドセットのシリアル番号に基づいてユーザ ID を検出します。



Note Unified CM ソフトウェアリリース 12.5(1)SU3 では、ヘッドセットがユーザに登録されているときに PIN 入力の要件を無効にすることができます。

ユーザは、ヘッドセットのプラグを抜くか、所定の非アクティブ時間が経過した後に、エクステンション モビリティから自動的にサインアウトします。

Cisco ヘッドセット 560 シリーズがベースから離れすぎると、ユーザは自動的にサインアウトすることもできます。この場合、非アクティブタイマーが切れる前にヘッドセットがベースに再接続した場合、ユーザは再度ログインする必要はありません。

ユーザは、電話の [アクセサリ (Accessories)] メニューから自分のヘッドセットをユーザ ID に関連付けることができます。

管理者は、ユーザ管理画面から Unified CM のユーザにヘッドセットを関連付けることができます。



Note ヘッドセットがアップグレード中またはコール中の場合は、関連付けを行うことができません。ユーザは、アップグレードが完了するか、呼び出しが完了するまで待ってから、この手順を実行する必要があります。

この機能を使用するための要件:

- Unified CM:
 - ソフトウェアリリース 11.5(1)SU8 以降
 - ソフトウェアリリース 12.5(1)SU3 以降

この機能では、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] の管理画面で新しいフィールドを設定する必要があります。この機能では、ユニファイド CM で Cisco ヘッドセットサービスをアクティブにする必要もあります。

詳細情報の入手先

- *Cisco IP* 電話 7800 シリーズ ユーザ ガイド
- *Cisco IP* 電話 8800 シリーズ ユーザ ガイド
- *Cisco Unified Communications Manager* 機能設定ガイド

Cisco Webex Control Hub のヘッドセットインベントリ

Webex Teams に接続されているヘッドセットが Cisco Webex Control Hub の [デバイス (Devices)] ページに表示されます。Webex の管理者は、モデル、シリアル番号、ファームウェアバージョン、接続ステータス、および接続履歴によってヘッドセットを追跡できます。

詳細情報の入手先

- *Cisco Webex* ヘルプ センター
- *Cisco* ヘッドセット 500 シリーズ管理ガイド

Webex Teams のヘッドセットのアップグレード

Cisco Headset 500 シリーズのファームウェアは、Cisco Webex Teams の最新デスクトップバージョンでアップグレードできます。Cisco ヘッドセット 500 シリーズで Webex Teams を使用すると、ヘッドセットのファームウェアが自動的に更新されます。ポップアップ通知で、更新が利用できるようになった旨が通知され、アップグレードの開始を求めるプロンプトが表示されます。

詳細情報の入手先

- *Cisco* ヘッドセット 500 シリーズ管理ガイド
- *Cisco* ヘッドセット 500 シリーズユーザガイド

IP Phone の Web ページでのヘッドセットのアップグレードソース

Cisco IP Phone Web ページの [デバイス情報セクション (Device Information)] に、ヘッドセットファームウェアのアップグレード制限設定が含まれるようになりました。

この機能はユーザーに影響しません。

詳細情報の入手先

- *Cisco IP* 電話 7800 シリーズ アドミニストレーション ガイド
- *Cisco IP* 電話 8800 シリーズ アドミニストレーション ガイド

VDI Linux 用 Cisco Webex Teams のサポート

Cisco ヘッドセット 500 シリーズは、VDI Linux マシン向けの最新バージョンの Cisco Webex Teams のコール制御をサポートします。

あります。

- 通話の応答、終了、拒否
- 通話の保留と再開
- ヘッドセットの音量調整
- ヘッドセットをミュートまたはミュート解除する

詳細情報の入手先

- *Cisco* ヘッドセット 500 シリーズユーザガイド

Cisco ヘッドセット Web ツール

Cisco ヘッドセット Web ツールでは、最新バージョンの Google Chrome を開発中のユーザのためにプレビューできます。

Cisco ヘッドセット Web ツールは、Cisco IP 電話、Cisco Jabber、または Webex Teams にアクセスすることなく、Cisco ヘッドセット 560 シリーズのファームウェアをアップグレードできる Web アプリケーションです。また、Web ツールを使用して、ヘッドセットのシリアル番号とファームウェアのバージョンを確認することができます。

Cisco ヘッドセット Web ツールを使用するには、<https://upgrade.cisco.com/headsets> に移動し、ヘッドセットをコンピュータの USB ポートに接続し、画面の指示に従うだけです。



Note Cisco ヘッドセット Web ツールは、現在、開発者向けに Google Chrome でのみサポートされています。<https://www.google.com/intl/en-US/chrome/dev/> に移動して、最新バージョンの Google Chrome Dev をダウンロードしてください。

Web ツールを使用するには、Chrome の開発フラグを有効にする必要があります。Chrome のアドレスバーに入力し

```
chrome://flags/#enable-experimental-web-platform-features
```

[有効化 (Enable)] を選択します。

Cisco ヘッドセットと Finesse の統合

Cisco ヘッドセットと Finesse インテグレーションは、Cisco ヘッドセットからエージェントの[準備完了/準備未完了 (Ready/Not Ready)]状態を変更する機能を提供することで、コンタクトセンターエージェントの生産性を向上させます。この機能をオンにすると、コールエージェントがアイドル状態のときにヘッドセットの[ミュート (Mute)]ボタンが[準備完了/準備未完了 (Ready/Not Ready)]ボタンとして機能します。これにより、エージェントは Finesse デスクトップに入るこ

となく、別の呼び出しを受ける準備ができていかどうかを制御できます。すべてのエージェントステータスは、ヘッドセットと Cisco Finesse の間で同期されるため、両方で現在のステータスが認識されます。通話中、ヘッドセットの [ミュート (Mute)] ボタンは、ミュート/ミュート解除ボタンとして既存の機能を保持します。

この機能は、Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5(1)SU8 のプレビュー機能として利用でき、コンタクトセンターの導入を対象としています。この機能は内部テストと開発用に展開できますが、この機能を実稼働環境に展開することはお勧めしません。Cisco TAC に対するすべてのサポート要求は、重大度レベル 4 として扱われます。フルサポートは今後のリリースで追加される予定です。

この機能を使用するには、エンタープライズパラメータを使用して機能をオンにする必要があります。設定メニューは、企業パラメータが有効になって初めてアクティブになります。

この機能の詳細については、Cisco Unified Communications Manager、リリース 11.5(1)SU8 がリリースされたときに利用できるようになります。

Cisco ヘッドセット 500 シリーズに関する不具合

リリース 2.1(1) の不具合を表示

Cisco Bug Search を使用して警告 (バグ) を検索できます。

既知の注意事項 (バグ) は、重大度レベルに従ってグレードが付けられており、未解決または解決済みの場合があります。

Procedure

-
- Step 1** 次のいずれかの操作を実行します。
- すべての注意事項について、次の URL を使用してください。 <https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=&pf=prdNm&pfVal=286320550&rls=2.1&sb=anfr&bt=custV>
 - 未解決のすべての警告には、次の URL を使用します。 <https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=&pf=prdNm&pfVal=286320550&rls=2.1&sb=afrr&bt=custV>
 - 解決済みのすべての警告には、次の URL を使用します。 <https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=&pf=prdNm&pfVal=286320550&rls=2.1&sb=fr&bt=custV>
- Step 2** プロンプトが表示されたら、Cisco .com ユーザ ID とパスワードを使用してログインします。
- Step 3** (Optional) [検索 (Search for)] フィールドにバグ ID 番号を入力し、[入力 (Enter)] を押します。
-

リリース 2.1(1) で未解決の問題

次のリストには、ファームウェアリリース 2.1(1) を使用する Cisco ヘッドセット 500 シリーズで未解決の重大度 1、2 および 3 の不具合が含まれています。

個々の不具合の詳細については、バグ検索ツールキットから不具合に関するオンラインレコードにアクセスしてください。このオンライン情報にアクセスするには、Cisco.com ユーザを登録する必要があります。

不具合の状態は頻繁に変わるため、このリストはこのレポート編集時点で未解決だった不具合のスナップショットを表しています。未解決の不具合の更新ビューや特定のバグを表示するには、[リリース 2.1\(1\) の不具合を表示](#) にアクセスしてください。

- CSCvt31707: Cisco ヘッドセット 561/562 が、オーディオパスを絶えず変更する場合に断続的にペアリングを解除する。
- CSCvt29818: Cisco ヘッドセット 561/562 が、確立されたコールの開始時に最大 40 秒間音声がでない。

リリース 2.1(1) で解決済みの問題

次のリストには、ファームウェア リリース 2.1(1) を使用する Cisco ヘッドセット 500 シリーズで解決される重大度1、2 および3 の不具合が含まれています。

個々の不具合の詳細については、バグ検索ツールキットから不具合に関するオンラインレコードにアクセスしてください。このオンライン情報にアクセスするには、Cisco.com ユーザを登録する必要があります。

不具合の状態は頻繁に変わるため、このリストはこのレポート編集時点で未解決だった不具合のスナップショットを表しています。未解決の不具合の更新ビューや特定のバグを表示するには、[リリース 2.1\(1\) の不具合を表示](#) にアクセスしてください。

- CSCvs23002: ヘッドセットをベースから取り外した後、ベースのバッテリーインジケータ LED が時折 1 つのライトに落ちる。
- CSCvt85607: ベースが lot6 モードを終了すると Bluetooth がオンになる。

インストール

Cisco Unified Communications Manager にヘッドセット ファームウェア リリースをインストールする

Cisco Unified Communications Manager でヘッドセットのファームウェアリリースを使用する前に、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager サーバに最新の Cisco Unified Communications Manager ファームウェアをインストールする必要があります。

Procedure

-
- Step 1** 次の URL にアクセスします。 <https://software.cisco.com/download/home/286320550>
 - Step 2** ヘッドセット シリーズを選択します。
 - Step 3** 最新のリリースフォルダで、**2.1**を選択します。
 - Step 4** ファームウェアファイルを選択し、[ダウンロード (Download)] または [カートに追加 (Add to cart)] ボタンをクリックして、プロンプトに従います。

Note ファームウェア ファイルをカートに追加した場合、ファイルをダウンロードする準備ができたなら [カートのダウンロード] リンクをクリックします。

Step 5 このファイルに関する追加情報にアクセスするには、[カートのダウンロード (Download Cart)] セクションのファームウェアファイル名の横にある [+] をクリックします。[追加情報] セクションには、該当するファームウェアのインストール手順が記載された **Readme** ファイルへのハイパーリンクがあります。

Step 6 Readme ファイルの手順に従って、ファームウェアをインストールします。

ヘッドセットファームウェア Zip ファイルのインストール

Cisco Unified Communications Manager のバージョンが 11.5(1)SU7 または 12.5(1)SU1 より古いバージョンの場合、ファームウェアを TFTP サーバのルートフォルダにロードするために次の .zip ファイルを使用するオプションがあります。

- cmterm-headset.2-1-0002-5.cop.sgn
- cmterm-headset-2-1-0002-5.zip

Cisco Unified Communications Manager 11.5(1)SU7 以降、または 12.5(1)SU1 以降の場合は、TFTP サーバにフル ファームウェア リリースをインストールします。「[Cisco Unified Communications Manager にヘッドセット ファームウェア リリースをインストールする](#)」を参照してください。

Procedure

- Step 1** 次の URL にアクセスします。 <https://software.cisco.com/download/home/286320550>
- Step 2** ヘッドセット シリーズを選択します。
- Step 3** 最新のリリースフォルダで、**2.1**を選択します。
- Step 4** 関連する zip ファイルをダウンロードします。
- Step 5** ファイルを解凍します。
- Step 6** 解凍したファイルを TFTP サーバ上のディレクトリに手動でコピーします。ファームウェア ファイルをサーバに手動でコピーする方法については、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』を参照してください。

関連資料

関連情報を取得するには、次の各項を参照してください。

Cisco ヘッドセットのマニュアル

お使いの言語、ヘッドセット モデル、コール制御システムに固有の資料を参照してください。次のドキュメントリンクから参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/headset-500-series/tsd-products-support-series-home.html>

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/headset-700-series/tsd-products-support-series-home.html>

Cisco Webex ヘルプセンター

Cisco Webex 製品のサポート記事については、次の URL を参照してください。

<https://help.webex.com/>

Cisco IP 電話 7800 シリーズのマニュアル

お使いの言語、電話機モデル、およびコール制御システムに関する参照物を参照してください。次のドキュメント URL から参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/products/collaboration-endpoints/unified-ip-phone-7800-series/index.html>

Cisco IP 電話 8800 シリーズのマニュアル

お使いの言語、電話機モデル、およびコール制御システムに関する参照物を参照してください。次のドキュメント URL から参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/products/collaboration-endpoints/unified-ip-phone-8800-series/index.html>

導入ガイドは、次の URL で参照できます。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/unified-ip-phone-8800-series/products-implementation-design-guides-list.html>

Cisco IP 電話 8800 シリーズ マルチプラットフォーム電話のマニュアル

お使いの言語および電話機モデル向けの資料を参照してください。次のドキュメント URL から参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/ip-phone-8800-series-multiplatform-firmware/tsd-products-support-series-home.html>

Cisco Unified Communications Managerのマニュアル

『Cisco Unified Communications Manager Documentation Guide』 およびお使いの Cisco Unified Communications Manager リリースに特化したその他の文書を参照してください。次のドキュメント URL から参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/tsd-products-support-series-home.html>

Cisco Webex Desk シリーズのマニュアル

お使いの言語、モデル、およびファームウェア リリース向けの資料を参照してください。次のドキュメント URL から参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/tsd-products-support-series-home.html>

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The following information is for FCC compliance of Class A devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio-frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case users will be required to correct the interference at their own expense.

The following information is for FCC compliance of Class B devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If the equipment causes interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, users are encouraged to try to correct the interference by using one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Modifications to this product not authorized by Cisco could void the FCC approval and negate your authority to operate the product.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2021 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.